94
1
49

準貴

宗家記録

諸方御内用往復書状扣

明治元年

四十一

宗家記録

諸方御用往復書状扣

第四十一冊

明治元年十一月より十二月迄

慶應義塾図書館蔵

一筆令啓上候
殿様
御壽殿様益御機嫌能被為成御座
被遊候段
上々様ニも御安泰ニ被為在御事与奉恐悦之
奉恐悦候次ニ拙者共ニ茂無事御家中一列別条
有之者共安穏罷在候
一 去四日安達七郎之亮殿御勤定奉行
在職中大目付兼勤一代官中して

此度青山公筆

御内用第四十三冊

一 朝鮮ゟ罷帰候以来之事病相扱帰国之儀
被出之先以前之病相扱候事之依致
相役之者一代有之候ニ付

一 同日右同人儀左殿中常勤之御事
御座候処此度勤方之通永々清馬廻ニ
立身之 作付候

一 同五日平山次郎左衛門役同寄帰役
就因文次郎役同寄之 仰付候

一 同七日

殿様已之刻御法言ニ
御出座之御遊参候議事之高く候通
御役事箱之御座候遊年之刻之
之為入候

一 同日三浦根花役兵役而大阪事諸士之
惣勤之 仰付候

一 同日会役而大須事 平田治部 三浦
根花役統隊之切紙之状之 仰付候

一 同日物役御同寄因為石見谷同同寄

無役杉村縫殿次鉄炮役平田直右衛門役
右役ニ而加判事ニ候　仰付候
一　同日俵六郎右衛門　吉村勝次右役ニ而
加判事ニ候　仰付候
一　同日同意次郎　會計奉行　吉川
杉浦會計奉事　吉村郡右衛門役
右役ニ而奉事ニ候　仰付候
一　同日某木勘右衛門　中庭役より七五三之
助役右役ニ而奉事ニ候　仰付候

一　同日右役所加判事　平田直右衛門吉村
勝同奉事　七五三之助中庭役より七郎役
統領ノ切組仕候　仰付候
一　同日奉行館議事會計奉事兼勤
川村九右衛門役
一　王政御一新ニ付朝鮮國より書契
来判使朝鮮之候　仰付候
幹事官ニ而差朝鮮ゟ差渡候
一　同九日重陽之為御祝詞申上ル御家中之

面々出仕

一 殿様表江御出席新規之面々御禮
被為請候

一 同日
殿様御下屋敷初而御霊屋江 御佛詣
被遊御機嫌能被遊御帰候

一 同十日参政之御家老三郎役御免政訓
大服事浅井思勤候 仰付候

一 同十一日
殿様午之刻 諸臣江
御出席 御政事筋御沙汰御座被遊
申之刻御仕舞被為入候

一 今十二日吉村勝右衛門儀御用談諸士
躰勤候 仰付候

一 同日吉村勝右衛門 御弓頭並之元
組頭役田中貳一組頭
縫殿吉組頭役高瀬 縫殿吉組頭
道具頭役 仰付候 被遊候 御役所

一 物頭衆陳屋具等所々修復被仰付候ニ付
同日同處田淵石見守殿御出被成候節
御取次事ニ而 御対面之後同所より次ノ方へ御案内
御用取扱候ニ付 御対面ニ

一 同日同處御役衆 杉村雅楽殿御出被成候節
御取次事ニ而 御対面之後同所より次ノ間具方
御寝所御用之義ニ付候 御対面ニ

一 同日信 六郎左衛門殿御出被成候ニ付
右 御対面之後同所より次ノ間御用取次ニ而
御対面ニ

一 同日同處信表又三郎殿御出被成候節 御取次
ニ而 物頭衆出役ニ付 此度御取次事ニ而
右ニ付御出被成候 物頭衆御取次事ニ而 御対面ニ

一 同日議事ニ付 御用取掛奉行衆十郎殿
同處御用番 右御対面ニ

右之條御尋申上候 以上
宝暦 九月十二日

古川宗女

樋口鉄四郎
村岡相模
村岡造酒
右同人家来 栗浦大次郎 煩ニ付 代 [illegible]
鴻雄益城
平田篤之允殿

右之御沙汰之趣を以
　安達主税亮
大関村主殿中
大関村無之節ハ前々代官頭取ニ相仕置
法節為氣並積之節ハ以前之通可取計候
御存知之儀ニ付執達同人減主殿中様被
申聞之趣可被申出候
思召承候急度ニ候得共　御村主殿ニ
下知申渡候以上
九月四日
　　　主税亮

請取申一札

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]十二

[illegible]

よろこ

宝暦[illegible]

以別紙之證[illegible]村[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月十二日

古川[illegible]

樋口[illegible]

村岡逸□
古川嘉浦太郎
鴻雄並城

平田篤胤先生

大状□□□□□□□□□
九月十二日
□□□
□□□□□

戊辰九月八日

以切紙申進候、去七日於阪□□□□□□□□□同等□□□□□□□□□□□会計□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□以上

九月十二日
執政中

平田篤胤先生

右御書付以使者差上候処御落手被遊候

六月十三日　何之誰

御親父中

此度六月八日

以切紙申進候　去七日春書札方ニ役
者書方ニ而右役業書役役者書
方御筆書記日帳付筆生ニ而右役
此段為御心得ニ申進候以上

六月十二日

執役中

平田萬之丞殿

右御書付ヲ以被仰渡候趣奉承知候

二月十三日

以書付申上

[illegible]

安永六年二月八日

以別紙令啓上候
寛壽院様御忌日二月十二日當
丈出為其以外付同月十三日御法事日ニ
被為成候付被仰出候 然ル上ハ以方京都御霊様
御中ニ家ニ居山様子承知御家門様方為
御知可相成候 尤之御沙汰可有之事
被以此段申上候 此旨御達申候
恐惶謹言

九月十一日

大門宗女

樋口孫四郎

村尾相模

村尾近江

古川遠浦太郎 [illegible]

嶋雄豊城

平田為之允殿

右之趣村中可被相心得候以上
以上
二月十六日
右之九
生方殿

戊辰六月写之

覚

以切紙申進候然者便二番手状案写
差遣之今度其元就之以上
九月十二日
糀谷中
平田萬之允殿

右之御書付之趣を以急度可申渡もの也

以上

十月十三日

某

清藤殿中

戊辰五月廿八日

一 御先祖之儀ハ

殿様 御寿殿様益御繁栄

之御事ニ候へ共御家内御安全

上ニ付候御持御安泰之事ニ而御宗

旨之儀ハ将又三代御厳敷申付候

ハヽ御貴様ニ而存候ハヽ

去十四日今年去年者村[illegible]

兵衛殿年去年者ニ付 御手当可寄進貰

前之御用御座候義ニ付候 御手当ハ

一 同日足軽五郎兵衛儀今井弥事之内ヶ
崎賀有之ニ付同所江罷越義ニ付候
仰付候

一 同日八木順右衛門殿勤役御馬廻
議事之 仰付役席是迄之通ニ候

一 同十五日
殿様表江御出席新規之通ニ
御礼被為請候

一 同日御願解御神事御能八月十五

一 日御結終
八幡宮御祈殿江御能三番相済三番
御奥江御出有之候
御寿殿様御渡中之方江御延寿参詣
御奥江御出有之
実如刀ニ而 御衣戸田民輔
御寿殿様同吉村五郎右衛門
一 同日表役浅井求馬儀被仰付候
仰付候ニ付兵(?)免御役大目付

兼而勤之　給分ハ
一　同日田嶋石見介後同寶恩之内より
兵役不相勤事之　給分並以下郡出替分
同寶恩ニ被下之候条免之ハ
一　同日杉村進居後同寶恩給役之内より
兵役不相勤事之　給分並以下郡出替分
同寶恩ニ被下之候条免之ハ
一　同日安鷹田助之介後今斗兼帯之内分
役事之　給分並以下郡出替分ニ付今斗

兼帯ニ被下之候条免之ハ
一　同日安川権兵衛後今斗兼帯之内分
河浦兼帯役事兼勤之　給分並以下
郡出替分ニ付今斗兼帯ニ被下之候条免之ハ
一　同日安村弥右衛門後今斗兼帯之内分
兵役不兼帯事之　給分並以下郡出替分
今斗兼帯ニ被下之候条免之ハ
一　同日今斗兼帯ニ足軽之者弥之助後弥役
兼帯役事之兼勤之　給分並以下郡出替分

相役共年来無滞相勤候ニ付先達而

一 同日新役之内二人過半国之支配役
請書之幹事裁判ニ付 仰付置候以
請書之幹事裁判之儀ニ付先年書面
其身之為也恩沢候 仰付候

一 同日右役之支配役之中相勤候
仰付置候処今年来重病ニ付候
仰付候ニ付萬勤ニ付 仰付候

一 同日今年来事御役萬勤其段奉願候

之役御稽古ニ精勤ニ付因之以付思召
有之候 仰付候

一 同十六日右河路殿補佐御将右馬之助
去月来ヨリ病気ニ付引込先年ヨリ病気
候 仰付置候処今以居先年ヨリ病気 不
御奉公遠方ニ付引籠難儀之極ニ付
浩殿補佐之儀文字ヨリ申付先年ヨリ候
仰付候

一 同十七日

殿様久留米ゟ御出府ニ付〻被遊旨承
御機嫌伺として罷出候
一 同日御奉書到来ニ付御老中
今年寄衆へ罷出候〻御届
御留守居ニ而〻罷出候〻右同様
以手紙を以被申〻御届
一 同十九日ニ而御番所ニ被参見分
可致被仰付候 御手紙を以申達
御役〻〻御申出

一 同日安政六未年平田治部之浦
拾六被致御役所江御届申来候〻
御手紙を以御届申上候〻右之通御届
申上候
一 同日安政六未年中 御役所江申出
一人ニ而相詰之処以〻 御手紙
一 同十日右御治部〻御役所江出候〻
今日〻〻〻之御届申上候
御手紙を以右御役所江御届申上候

上ヶ候ハ、仕来之通極月廿日迄ニ返済
又ハ　御用捨被仰付候ハヽ
御勝手懸り之内拾石ツヽ被差遣可申
御用掛ゟ被相渡候筈ニ御用掛り並相勤候
者共ニ而茂相心得候様被仰付候
右帳面之通御聞届被成下候様奉願候
酉歳
九月廿日　古川　采女
樋口　縫殿助
村岡　相模
村岡　近江
高雅　山城
平田萬之允殿

ちかい此むねを承知可申者也

右月十二日　　　　　あきらか

先左衛門殿

寛政十二年申

しるし

以別紙致啓上候古川要蔵清右衛門殿
病気二付御蔵番役清右衛門義ニ付新役
以書付を願出候所御聞届被成候儀
右之以書付新規之御蔵役被申付候
去年右之段申上候也　猶以此後
人々得其意被仰達候段可申上候
以上其段奉願上候

九月廿二日

古川

宗女

樋口権三郎

村岡相模

村岡近江

野村善蔵

平田為之允殿

右之趣高覧之上無相違申聞候ニ付加判仕候

石川清太郎

九月

一 米壱石弐斗五升

右ハ[illegible]被下置候

右者十二月[illegible]

[illegible]御代官所

戊辰九月廿三日[illegible]

覚

此村儀ハ[illegible]村長迄[illegible]

当[illegible]時

[illegible]年[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月廿三日

古川 [illegible]

樋口鉄四郎

村田相模

篠雄美濃

平田萬之允殿

右之趣書付を以申聞候間可被得其意候

九月十三日

差出候

一筆令啓上候先月中朝鮮御用向御紫ニ通り名古松江申来候ニ付御承知被成候中途ニ而可被申渡候恐惶謹言

九月十三日

古川采女

村岡近江

古川図書 浦右衛門

平田為之允殿

八月朔日

当身　湊山治左衛門

右者三巡源氏役差渡ニ付人江　従来

於役所申渡之ニ而依之源氏ニ差渡候役出之候

筆

同二日

古賀昇一所

右者鮮卑横目ニ而出仕之事ニ而横目勤

来戌之上浦方手役助勤申渡候ニ付今般浦渡
之浦方不日御渡候ニ付同之通拾此無之浦渡
申渡候御定方之浦之間宜敷計らひ候ニ付
浦方江及沙汰候事

同四日

大目付

寺社奉行
巡瀬民部被仰渡候人江
以書付御役御免申渡候
之通被仰付候ニ付此度被仰付候事

右者御役被仰付候ニ付御役御免被仰付候事
此度被仰付候事

同六日

御関係

二井田蔵
右者御役被仰付候ニ付御役御免被仰付候事
右者御役被仰付候ニ付御役御免被仰付候事

御用中之府尤し御免之来代切米被
仰付候ニ付右之府仕切ニ　給米

同十日

大支役
阿比留□通

右永浦二七両代ニ而御米出之個

御用買物ニ付　給米

同十一日

佐護

右者高麗取代之人出府被仰付之處

御免ニ付　給米

同十二日

井上之玄蕃

浜勘定所

表衆同付

吉村孝右衛門

書状役役

武田長三郎

右者拾巡七巡源氏諸送使宰人ニ
給仕並ニ為支持役法用中ニ宗家茂長
一両度ニ役ニ出候先筆
同十一日

右者井上玄殺内代被遣ニ　給仕筆
同十一日
橋邊元良

御附
永瀬常助

右者従前宗江口ニ廣太夫ニ無代ニ届ニ
給仕ニ内代第一ニ送差出候付ニ
初巡源氏諸送使宰人　給仕筆
教授氏ニ助蔵

平山内井
日本ニ河野久太夫
右代
村江常助
一通同宰人
一早田

壹番隊

陶山 庄一郎

二巡目寄人 浦山

治島隊

松尾 茂亮

殘命 淺後 山口

高鳴隊

佐伯 信太

三巡原氏詳後寄人

広田勤寄隊

串浦 宗之允

日本之内 淺沿島

隊

小田 波作

六巡目寄人 堀

諸子多隊

小田 江之助

七巡目寄人 武田

右之分名代
喜左衛門
同村之
加藤伊左衛門
並同寓居 橋
与市名代
三木源助
九並同寓居人 平山
万之丞名代

梶村段之丞
十並同寓居人 吉村
寺右衛門名代
梅脇市左衛門

右之通名代人相立候段承知仕候
給ハ付出来
同十七日

豊浦
解蒲村

二

役人
扇 要江門
宮原小七
宮原小左衛門
宮原源三郎
宮原卯左衛門
宮原熊七
宮原格之丞
宮原喜左衛門

宮原儀助
宮原秀助
宮原忠之丞
浦崎政五郎
扇 繁作
扇 民之丞
宮原常助
宮原庄左衛門
宮原亀助

浪花西之人

唐子
玄原長四郎
玄原末吉
社人
井坂左門
同
岩村
門一
淵川勇右衛門

大浦只七
大酒五郎
大浦源三郎
深川本輔
深川恵太郎
喜動友九郎
足助庄右衛門
深川云之丞
深川林右衛門

沢門 良左衛門
社人 武末伊助
同祝者 武末好輔
居
白木村
同
大浦勝之丞

出勝 十八
大浦 要之允
武末 清兵衛
武末 縫之助
大浦常太夫
原 善作
梅野正右衛門
梅野友之進
梅野孫四郎

同
武函

門限吉通之

梅野源八郎
梅野森之進
原五兵衛
本多仙之允
本多嘉兵衛
武藤九十郎
本多卯吉郎
梅野兵三郎

以上拾人

梅野清十郎
武藤清助

証人
和田吉蔵
右隣
和田六左衛門

右者去寅四月十日船難宗九郎解[illegible]
細島之浦ニ罷在候処彼船ニ乗[illegible]
早速証拠詮議を以相届候[illegible]

之精硯島村ニ漁ハ御座候方ニ出し候処
鯨串并肥前生津之人多ク一所ニ罷在
其上御上之御用ニ候得者安藤紫様参り申候
罷有之候ニ付切ニ而御勤仕候處上田迄罷越候
中候ニ付段々其九月ニ付致し候ハヽ其上ニ而相極
右之通ニ候以上

御勘定奉行
稲垣淡路守

安藤鍋滴遠藤右書付御用ニ付急キ候

右之通ニ候以上

同十八日

朝鮮人御用ニ付船房内浦ニ而之処御届
船役人御用中ニ而南京ハ横目役人御届
浅右衛門ニ而候ニ付　御用座候ニ付其船頭源
御渡奉行かハ御渡ニ而　御用之儀御届渡
ニ御定代官不勤候ニ付御渡附御用御座候
其ハ八ツ時ニ付御定御座候　御用座候ニ付
夫ニ宗ハ役ニ候ニ船役人役代官不勤渡ニ付候

御用之節ハ廻船相勤候ニ付　除之

但浦役之者人共ニ前々之通ニ付浦役代無懸候

之者共前々より浦役ハ相勤候ニ付　除之事

一　水主役方之儀條書差出候ニ付申上候　浦役之者共ハ船役ハ相勤候ニ付

浦役ハ前々より相勤来候事

但浦役米之儀月割ニ而浦役之者共より相渡申[illegible]

一　浦役諸運上之儀無之船役ハ浦役之分

浦役高ニ付而者前々より浦役相勤[illegible]

浦方より相勤候浦役源之上浦役高ニ付而者[illegible]

無之事

一　浦役之儀無之九ヶ年[illegible]船

出浦方より相渡候　早[illegible]

浦之者共浦役高ニ付而者浦役場ニ而[illegible]

相立候ニ付日数ニ作法廻船相勤

一　小船相立候ニ付相務候浦役之事

一沖津役所へ被召出大目付中ゟ申渡候
以書付を以被仰付候大目付中ゟ書付ヲ以被仰渡候
写
右之通今般被仰渡候　御書付写

同廿二日
浪七兵衛　大浦龍之助
同五兵衛　清原清
前々朝鮮方横目頭大小姓方横目頭役儀仕
之候処近年者御用繁多ニ付横目頭被差免候

御用一和可致事ニ候依去年以来
之御方へ今度被仰付候之陰之趣
御用向差合之節者右役々申合
加へ役人共一統作法相勤大小
出入有之節者一統申談之
御用向之儀者是迄之通相勤候
様被仰付候

古屋平右衛門
石田東助

同二十四日

里見十兵衛
河合佐左衛門
一色主馬
佐渡文蔵
古荘宗右衛門
東谷市之丞
井　孫右衛門
中路喜兵衛
広田庄吉

右何茂此様同様仕兼候へ共諸般之御用
筋相勤候而者證候而精勤相勤候者有之
御奉公并ニ深厚手一和ニ諸事ニ付ニ士風
堅固ニ無之ニ付清く無之ニ付猶精勤ニ相応
稀成勤方ニ候処加ニ并朱米之上勤者ニ付
又ハ大小之船出入之節ニ寄之を預り一統役目倍増
今度勤候ニ付為其褒美

同二十四日

津井大次郎
涌井権之丞

稲垣　八郎

右者先般口米江横目出役仕無滞相勤候ニ付
格別之事ニ候依之目録之通御褒美銀一枚被下之旨被仰付

銀弐両

徒目付
堀　勇蔵

表御目付
久井　源兵衛

右者今般朝鮮御用ニ付出役仕寒中之勤方御用向
日夜別而精ニ入寒中一統骨折相勤候処
深キ一和相心掛精勤いたし候段
御沙汰之通目録之通御褒美銀一枚被下之旨被仰付

同二両宛

徒目付
村田　源太郎
辻　良右衛門

右者朝鮮御用ニ付出役仕無滞相勤候ニ付
格別之事ニ候依之目録之通御褒美銀一枚被下之
旨被仰付

銀弐両

小人目付
浜野　次郎

表御目付
吉村　安右衛門

右者度々朝鮮御用出役仕無滞出精相勤候ニ付向

御白洲ニ而法田村中村野添之丞殿被仰付
法清寺ニ而後源万治年中ニ和経吟味仕候
精勤ニ付為御褒美御手当万永代被下置候ニ付
難有奉存候　右之通申渡候ニ付
法清寺月付
稲村清蔵
右之通被仰渡候万端当村江追而来十月
三日迄ニ申出候様　仰付候ニ付
法清寺月付
田崎蔵作

右は此度当村江組頭来九月
三日迄ニ申出候様　仰付候ニ付
同廿五日
摂津源氏請渡
法華寺ニ而永代之者
平川判之丞
右条人相之義取調可申出候様
仰付候ニ付
同廿六日

御勤之段
稲留織之丞

右之鏡御渡被成候御用ニ付日光
表ニ差越候ニ付今日上府仕候事

同廿七日

御當番御横目
永濱常助
阿比留沢之助
谷原之助

右今日相済候ニ付御届申上候事

御當番御横目
阿比留作之進

右之段御届申上候事

御當番
稲留織之丞
御當番御横目
子田象太郎

右今日相済候ニ付御届被申上候
日延之段承届候ニ付御届申上候事

同廿八日

五巡源氏講送役
宮人鞘勤之重衛
串家宗元能役所
代、
岩村佐太夫

七巡同断ニ付富乃久郎
柳原源氏講役所
能役勤代

船越友三清
八巡同断ニ付田縁兵衛
源氏
中座 水谷来

安海源氏人形浄瑠璃之 給付之事
同廿九日
御鮮首座役
広勤當年も之
川本九太夫

本坂原加役之 給付之事

六巡源氏講談申上
田緣太々年庭代
小田柳右衛門

右之中歴此年ニ而氣病歿民正
終身止筆

同晦日

初巡源氏講談
右同人
平山昇

日東之
村江常助
二巡同右人
陶山庄一郎
日東之
清料理人
山本讓右衛門
三巡同右人
松尾茂亮

日本之
内山又兵衛
殊命諸侯之官人
朝鮮方書役
吹分与之助
日本之
作佃徳衛
五巡源氏諸侯之度
上官人

岩村行右衛門
日本之
小田大作
六巡同上官人
小田汰之助
日本之
朝鮮人
中尾亀次郎
七巡同上官人

番　長右衛門

日本と
船蔵加兵衛

塩飽同心宿人
二ッ木澤助

日本と
小田柳右衛門

塩飽同心宿人
梶井政之丞

日本と
[illegible]人
岩田覚右衛門

塩飽同心宿人
梅野市右衛門

日本と
平川利之丞

右今日拙者共上船ニ　給候事

以上

覚

御蔵 青山九八郎

一 御切米之儀中通去年四月ゟ被仰付候
以来之通被仰出候神社寺社道ゟ御定之通
御渡被成候付参候得ハ支配ゟ
御用ニ而一通り少しも同様御支配ゟ
御用付ハ
一 同十七日大目附衆ゟ御書付被仰渡候右
御渡之候ハ
一 同日御家用御渡之去年ゟ十二月大番方ニ
御請之通り以来皆其通御渡可被成候

右御書付之前略
右之御書付之通被仰出候間其通可被存候
以上
寅十二月
村上兵部殿
御用番
平田甚之丞

右之者共江申渡候ハ

一 同年七月廿日右之者共江申渡候趣左之通[illegible]

[illegible]者共[illegible]候[illegible]者共[illegible]

[illegible]年寄中江[illegible]候

一 同年八月[illegible]候[illegible]

[illegible]御[illegible]候[illegible]

一 同年九月[illegible]候[illegible]

[illegible]候[illegible]

一 同廿日[illegible]候[illegible]

[illegible]候[illegible]

一 [illegible]

[illegible]候[illegible]

[illegible]候

一 同年[illegible]候[illegible]

[illegible]

[illegible]年寄中江[illegible]候

右[illegible]中[illegible]

九月廿二日　執政中

平田馬之允殿

右以切紙被仰越候趣承知致候此段御返事申上候以上

十一月廿三日　前田主元

御執政中

しるし

一 以切紙申達候

然ハ当社之儀此度宇奴刀神社与

唱候様被為仰候間御承知可被成候以上

九月廿三日

平田篤之元俊

執政中

右之趣申来候ニ付此段申達候
九月十三日　執政中
御境役中

尚々

以切紙申進候、先便留守中状案写
差遣候之、今度急飛脚差越候ニ付
九月廿三日　執政中
平田篤之允殿

右之御方茂何方も無之何ニ而も遣候ハゝ

寛永十三年

御嘉例年

御名乗

何茂

一筆啓上仕候甚寒気祥瑞兆之儀

殿様益御機嫌克被成御座恐悦奉存候

今日講合之節長崎奉行同伴相成候ハゝ

御請大船遣切支丹御制禁就

博多之継舟之儀茂被仰付候

三之儀相違無之中川筋相改成候

中ニ而通候仕候様被仰付候

之儀前々之通可申付候

根本何茂

之ノ相願候ニ付待合候得共御沙汰無之以来右

相成急速之助并倹書差上人寄遍以奉願

候儀ニ御座候祥瑞丸乗組之者共神戸

表江罷越右乗組之者共種々探索仕候得共今以

行方相知不申候ニ付恐入奉存候然ル処小船ニ而

右天保山之方ニ乗組候者有之ニ付早速之

段御届申上候祥瑞丸乗組之儀神戸ニ而難船仕候

段申上候ニ付御判以別紙書付仕候宜敷御沙汰奉願候

御取計被下度奉願上候此段不取敢七日出船ニ付

右ニ付右之趣御届申上候ニ付右之趣

今般出帆仕候ニ付書付ヲ以奉願上候以上

尤右乗組之者共之儀者先方江懸合

仕候ニ付猶委細之儀者追而

上申仕候得共左様御承知被下度右之段

宜敷御取計可被下候様奉存候

十月十七日

竹本重次郎

多田荘蔵

平田篤之丞様

右書状以飛脚差出申候以上

十月廿五日

以上

荘兵衛
方ニ而渡

慶応十月廿三日迄

一 當人儀ニ付
殿様 御寿殿様 菅御様御雑
之儀ニ付御尋被仰付候
上様御様御安泰之事ニ付御尋
奉伺候 将又先年御屋敷中引継
有之候儀相違無之候
一 右同当日御酒被下候村儀屋江
出張事御尋被下候荒増之通申上
順席之上 相済候

甚左
上御出張之候
入念之上蔵相済候
之ニ付

一 同日中庭源七郎・平田平十郎 被
西之丸様島弥太夫殿源内殿妹
田代新八ニ申付候

一 同廿七日
霊光院様御月忌ニ付
厳様并松院様 御仏参被遊相済
御様姫様御参詣候

一 同廿八日大番頭事席ニ而事掛合年
寄中ヨリ御用番以被仰渡候事

之 被仰付候

一 同廿九日
御仏詣日ニ付
厳様并松院様江御仏参可被遊候処
御延引被遊候

一 同日岩波不如願事田源左衛門殿
持役同人ヨリ当時被申付候由
被仰付候

一 去朔日

殿様表江御出席於御殿ニ而御目見御礼有之
無滞相済候由

一 同日佐藤恒右衛門　海保吾九郎　扇
源右衛門　出島練之允　等江
給仕無之如式上江筆江段々被仰付候
相済候由

一 同日本寺龍光寺志田幼助江倉右衛門
当番ニ付　給仕筆江御役席江申無之
筆江御役之被仰付候事　御役ニ付被仰付

御役名書今ニ之御改御役席之儀を
更議方役事ニ致候　給仕候

一 同三日
弘國大明神御宗社ニ付
殿様　御奇殿様御社参一ニ付遊之候
御延引之御改候

一 同日野村吉兵衛倉田吐兵衛役
奉書ニ而　給仕無之如式上江以恐被仰事
次席之御改候

一 同日出雲方御役仕立物方御役同印
兼勤之儀御免御役年季ニ付願之通
以来之儀ハ常々精勤候様被仰付候

一 同五日杉村七兵衛儀中元方役之事
之 御付候

一 同日銭本屋正兵衛儀出精ニ付御役
被仰付候以来之儀ハ其外御役御用之事之 被仰付
兼役不大形事ニ付此上之通心得相勤之
被仰付候

一 同日兼役不大形事ニ付杉村藤之助役
相役之内より精勤ニ付人少之日当〆賄〆勤之
被仰付候

一 同七日三宅半次郎事御役ニ付八助儀年来之勤方
之様子猶又可成丈家業出精之外相続之
精出ニ付此段申之 被仰付候

一 今十日新田長之助 中川与三郎儀常之
役役之 御付無余儀以之人数相欠ニ付
加役之 被仰付候

右服薬年迄如例相勤申候以上

亥

十月十日

古川象女

樋口藤四郎

村井杉樹

村岡近江

平田為之進

島雄苗様

御座右

右御書付之通相違無御座候以上

十月廿四日　　何某

何之何某殿

こゝまて

丑十月十六日迄

以別紙ニ御意ニ候
寛寿院様御事　実御祖母様ニ
被為成候付毎月
御備請ニ被仰付候処御家之
給也ニ付御菓子料被遣候ニ付被成下
中途切不申候ニ而御檀家を
十月十日

木门　宗女

樋口鐵四郎

村岡右様

村岡近江

島雅樂様 御中

平田前之允殿

十月 日

平田前之允

以別紙令啓上候、村岡近江殿

御手前時分被仰付候

十月八十日

大門 一女

樋口鉄四郎

村呂 播

島雄 菱 様申候

平田為右衛門殿

右御書付之写を以申渡候以上

六月十一日 為之允

ヨリ返事

返御印

ヨリ来る

右十一日 [illegible]

一 以前被申進候處同晦日御返事座候
之儀ハ先頃役ニ付而市役ニ書事ニ申上
候 御付候

一 同廿八日 朝鮮方ニ被更儀方ニ而被
候役之儀ニ書事添役仮事ニ而務役
之旨ニ而被役候

一 同廿九日 今日添役之御用事ニ
ニ而被役候

一 同日 當役被仰事ニ而被成候 [illegible]

職事御出候　御対面候

一　去朔日令叙爵事之御礼被申候
御対面之上御盃被下之旨
筆被遊被下候

一　同四日以来舎弟部少輔殿高殿之所司
御座候

一　同九日法度ニ付参殿之上御覧セ
以来御達方ト称シ参殿之加役相立
出張候　御対面候

右通可然様ニ申達候以上

十月十日　観浚中

手田淡元殿

一 右之御書付平田所左衛門方より出候
同人
岸五郎　平田所左衛門
樋口縫殿中

去十一月十三日ニ

以上

以切紙申進候、樋口縫殿助殿大儀
参判使被蒙仰候ニ付、船艤ニ相渡候、右
ニ付、逗留之八日所上船有之候
此段為御心得申進候、以上
十月十日
平田所左衛門
槐波中

右之切紙其元ニ而可申候處存之外遅成候

以上

十月廿日

御返事

宗何分よろしく

以上

猶々申候

以切紙申進候 先度者書中

申遣候先月中 白眼之様再分段

委細之以上

十月廿日

宗

親政

中田何之丞殿

右之通承知
御請申上候

一 御公儀より樋口孫四郎殿被渡候
御折紙ニ而渡候者共九月十六日
收事ニ届候　御出ニ而右折紙并家知
可有之ニ付此段御心得可申達候
宜敷御頼申候

九月十七日

吉川 釆女

村瀬 近江

平田[illegible]殿

辰年九月十六日[illegible]

何ヶ年之[illegible]

十一月十三日

小林[illegible]中

[illegible]

樋口孫四郎殿被渡候条則日以書翰
朝命申達候條右大御使与可申候
九月

此節之貴酬
右之此方ニ而手元より差上候ハゝ御返事可被遣候
以上
十月廿四日
喜太夫殿
千田與三兵衛

ゝ承知承来
寺御…

一 金子預ヶ置候ハゝ川本九右衛門殿
王政御一新之際[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
九月十一日
古川 条女

平田方元庄　村長
近江

常陸波識事
今井嘉平兵衛
川本九左衛門

右之
王政御一新ニ付御解除ニ御座候
奉行役所ニ罷出候所御役附大奉行役
新組之内、組付並ニ而私共相勤罷在候
ニ付而急度御願ニ付、兵長仕候代年貢ニ而
仕候上

九月廿日

右同通之　松平伊予守様大膳友之元

参十五年

御年

鷹田　貴成

右之

天家御門〻新〻候細解候ニ付当家年預被

可有之候ニ付松平紀伊守殿御念〻御披露候

此段申候人并ニ出仕候ハ、以御用候之

家〻門人候者ニ候ハ資ニ而御礼ニ出仕ニ

人候ハ大年刑候赦免之事　松平伊予守

申付候以上

九月十日

右同通之　松平伊予守様　秦川玉蔵

右御来会有之候ニ付
右ニ御来会ニ付御書付差上申候
以上
十二月十二日
平田為之允殿
宗門奉行

右之通
と称之

一　急度申達候、然ハ寒川玉城年限
裁判之　御村方作事之儀ニ付御調方御
差支候ニ付此度其方ニ相渡之　御出候事ニ
申達中ニ付其段申上度候ニ付
為相済候

九月廿二日
古川　采女
村居　出口
平田為之允殿

当人　安川玉城

右之者去ル六月年限裁判ニ而江戸仕合

ニ付　御附並ニ如公作米中沖縄定来

巳年ヘ三ケ年限ニ而加限之儀ニ

御掛ニ而右年限裁判役ニ　御附来

旨ニ而右之段申出候以上

九月廿二日

大通事ニ　御座候　平田之殿

一 御米之儀者

右御米千二百石…

十月廿日

…右衛門殿

…

一筆令啓上候、然者月中御銀御用ニ付
御米之通以前方古松法…
爲御手形…

十月十三日　古川采女

村尾近江

平田弥之允殿

一
小出書之

九月三日

当人　仁位極之丞

右者年條副特送使到官令
任其並以知拾役用申出て求之候名代
差渡候旨候之處其以申

当家大小姓横目
平山　浄吉

右之外被

殿様御昇進ニ付御家
勅命ニ付古実伝申出代々御沙汰何々
中ニ之席ゟ申 ―

是日帳付
金拾 壱歩

右御預ニ付前年 御実印古格月七

御付ゟ申 ―

御勘定奉行
大目付兼帯

安達 右兆亮

右一代官として朝鮮ニ而仕候ニ付
帝ニ而御聞届之代御出し候被下ニ付御出
不実之品御座候ニ付御沙汰ニ御座候而
能々相改候御出中被下候様被下候
中紙今日迄ニ御出候ニ付申 ―

日本
朝鮮国御用ニ付被仰付
御公儀御沙汰之節御座候御席中ニ而御沙汰

常法渡与為ヶ□見海岸ニ差掛候之
候ニ付、朝鮮御用船ニ而被仰渡、朝鮮
御用意被成、右之趣ニ而廉ニ付、来宮相傳候
名前書付差遣候ニ付、右之趣ニ候
但其節之趣朝鮮方ニ申聞候得共、添書差出
朝鮮御用意被成候旨、名前書付を以申上候
不及其段ニ而可申候事
右之通 候以上
小坂 恒民

平田 直元
右者前年漂到朝鮮送使両官人え
候付、遂以出会、朝鮮御用中出て、不及其段
可被仰付候旨被仰出候事
同九日
堂上大和守殿御使
安山 浄忠
右之
御用ニ付、官館御代官佐無御代中ニ而相勤可申候

辰ノ年四[illegible]人之 御判ノ事

同吉日 永源 二七[illegible]

大[illegible]嵐[illegible]通印守半輪吹候之

御判ノ事

同十八日

小河法生

平田 節[illegible]

大[illegible]岡年法願三月出[illegible]宗[illegible]様月之

御判ノ事

同廿九日

出[illegible]市[illegible]様月

[illegible] 可[illegible]

大[illegible]能病氣代ル人之[illegible]文代之[illegible]

ノ法[illegible]部[illegible]通之 御判ノ事

法生同月

平田 [illegible]

右之学ぶ求助者ニ　従是無外ゟ
諭貢ヒ　従是より学ぶ求助書ヽ儀も
外ニ免可申

日次日

当年修行ニ付此度
西京人手田　幸元

名代
門山　叶
同村友人に依頼

名代
平同　将八
口数郁之人外増幸

名代
高木　義理
口郁之世隊書入之情

名代
小川　常一郎
口首郁之学理書之情

永代
野田平之丞

右者永代人払之儀相出可相通ニ付如此候
御判

寛永六極月
数馬　万太夫

右之通永代人之儀以下ニ而永代
之前ニ而相出可相通候　御印ニ而如此相済
御橋又ハ永代之前ニ而相出可相通候

御判以上
日本方

寛永六極月
数度　万太夫

右ハ永代之前ニ　御印五以如斯之前
御判
日本二方

正徳五月日
茶田直之助

一 去ル寅年御書面并去ル寅七月
受代前ニ付右之代ニ付候年
寅年條到来送度
封進而右御広間
若代
中西　要
一 去ル若代ヘ御糺御出所迄被仰付候年
日本橋

御居所
日帳付
笠原　又之丞
一 去ル寅年條到来送度若年寄ニ付ニ
御承知之趣ニ付此度御用中出ニ付候
若代御渡被仰出候ニ付年
同九月七日
一 九近藤長蔵殿ニ受取ヶ渡之候段
此方ニ而申達候ニ付御用ニ付候

渡送船宗出羽守方江返翰並別幅
源氏迎送之返翰差添先出揃候中得其意

朝鮮礼曹参議閣下
源右 蔵書
日新礼曹参判
対東 安承浩

東萊府使代又
得其差向ニ大船流出
之船ニ而宗対馬守中ニ参村船迄より
当家ニ而出候大小船出渡海又

得其意候

当家礼曹参判
金某 書啓

得其意候

朝鮮礼曹参判
対東 安承浩

東今日相渡候又

得其意相流茶下

東今日相渡候又

相渡実船出船之節又

得其意候

日本八ケ

亥十二月日

米田惣助

右者実不勤番ニ付
以書付遠慮病気ニ付
此段御断申上候処願之通御免
以上

右者大御番組頭役相日誤[illegible]御届
以書付以上

壽源　謹言

日光九日

寅年願済之付遠慮
御相続御番之儀文之通

名代

清居源十郎

右者名代人相勤候節
御断申上候処願之通御免
以上

何之

ゝ此御代者首尾て
大ノ御代ニ而ゐらせ候以後出来迄ニ
其ゟ七分 ゟ御座候
以上めて度

右之通り
此度御れ
御れ申候
申し

一 筆致啓上候 然者
王子村前様之事ニ而御遊ニ付候
天満宮之ニ而月後之義者御寺御参合
可致者也御座候御年寄御座候
御寺一統之也御相談寄合
王子村出遊大之御社
新年之御遊同御座候

昼百ニ仕候

御学業ニ而も為遊被為在候旨
天機御伺として御参府被遊候由承知
御同席様方参会仕候然は御同席御伺
手紙ニ而申上候事ニ御座
然る処御様子ニて御座候参会来年ニ御参会
可被成御事申上候御書外
猶又御頼之品御座候然ハ夷申上候

思召之程奉存候御書面之趣承知
御申上候御座候
御答申上候
御落之記御座候
ま申上候御聞
書状之御座候
天朝御座候通

一 當年從御取立[illegible]思召[illegible]
至被為御新ニ付参府被仰付候
御領[illegible]御觀音[illegible]進上仕置
其[illegible]御申年十七月[illegible]
去ル[illegible]
東[illegible]御取立御[illegible]之節
[illegible]南 御[illegible]
候[illegible]之道御[illegible]御[illegible]
右之趣為[illegible]御[illegible]
[illegible]

寺[illegible]

清浦[illegible]

梶川[illegible]

平田[illegible]之允様

宗対馬守

大久保加賀守殿御領分英同□□□

中務大輔殿御預之道中□□□

井上河内守殿御領分之□□□

井上遠江守
奉行
天保作

井上河内守
梶川三郎

一筆啓上仕候、然者御地出之江
相付候後、大坂表より来ル仕合之気分持合備分
揚候、去ル十日出ニ而江仕、然処御届為平
上ル新[illegible]候[illegible]候

八月廿日

渡辺孫右衛門

平田為之允様

此節[illegible]
右申[illegible]
[illegible]廿二

平田為之允

[illegible]候
[illegible]候

右書状之趣可被遂言上候以上

十月十七日　平田□□九

深尾源左衛門殿

一筆致啓上候、我等事土佐守江達上
桜井蔵人岩谷宝次郎殿今程
其許地ニ而右仕置候方集右岩谷
順作為代急ニ上京中渡内存候ニ付
出立為登候間右様御了簡違ニ而御下
着仕候ハヽ請取可在之候、就夫
集右衛門儀も急ニ交代罷帰候旨
仕候ニ付両人江申遣候間可然様
為可申上如斯ニ御座候恐惶謹言

平田□□
□□□□
□□□□

五月十九日　嶋雄八郎

吉田隼人

平田為之允様

右御紙面致拝見候以上

六月十一日

右返

あらかしこ

並帖手
山口写し

一筆啓上仕候、毛利大膳大夫様御領分
石見国浜田遠田浦江漂着之朝鮮人
拾弐人、今十七日藍嶋ニ而萩藩より受取
当津渡ニ而差渡候、召連被差越候ニ付
請取候ニ付、例之通宿被申付候、
慎而只長崎様ニ而当津使者ヲ以
差物被受之、右之人数当津裁判所江漂民
之儀者当津白洲ニ而在住判事村京七
出席、御帳面拾別ヲ以人数

右十七日

漂民共申口引取来候ニ付右之者共漂流船
並ニ朝鮮国江送還候節銭百貫差遣
申候ニ付桐懇之御心得申上退出仕候
一右漂民共御取計衣類小屋江可差置因茲
申付置候支度ニ付可申上書付並漂民共之書付等入御覧候
右之通御達申候御聞届可被成候恐惶謹言

十月十七日　桐良丹蔵

平田爲之允様

明治元戊辰年九月二日右御大風之節大変相
成候領不知国浜田遠田浦江漂着之
朝鮮人拾弐人

口上覚

我々共者朝鮮国慶尚道寧海之居民
御座候壱艘ニ拾弐人乗組七月廿日寧海出帆
仕咸鏡道徳源江参り銭小米積入帰国之為
八月廿四日同所出帆仕候処海上ニ而同廿七日
ニ而俄之大西風吹起リ地方江不相叶候ニ付

漁者力之及不申候處次第風波強相成
其上櫓を損し不得止任風漂流仕候処九月
廿日何国とも不存湊ニ乗込候処当浦人ニ出会
彼救抱ニ而初而日本之地と承り大ニ安心仕候
其後十月六日出帆之儀ニ而海上無恙今朝
当浦ニ着仕候漂流之内何国ニも船繋
商売ケ所無御座候而御座候之通ニ御座候
右之外漂着之儀仕候漂着之今日迄之
迄下宿ニ罷出候ニ付合申候

一　乗組人数之外乗組無之ニ而御座候
　御座候右之外乗組無之御座候
一　宗旨之儀ハ御法度之切支丹宗門之者ニ而無御座候
一　携物之儀ハ御法度之品并ニ禁制之品等一切所持不仕候
　右之通漂民共申上候ニ付書付差上申候以上

明治元戊辰年
　十月廿七日
　　　　　　　　御役所
　　　　　　　　　　堀良丹蔵
　　　　　　通詞
　　　　　　　　　　中村兵一郎

中野伴多郎

判金
定山平之郎

名歳附

覚

一 歳四拾五　金　ミニ ホウ

一 同四拾三　金　イユンツブ

一 同四拾　裴　スル ヨク

一 同四拾七　金　ウグ ボウ

一 同三拾一　洪　ハイ イン

一 同四拾一　李　ハク セイ

一 同三拾二　申　チユヒ ホウ

一 兼三歳　朴　チユウ　ホウ
一 同二歳二　金　ユニ　チイ
一 同二歳六　宋　バグ　ヤニ
一 同二歳四　兪　イ　ウワア
一 同十八　韓　カグ　クル
右之者共我等方ニ而支配
仕候者共ニ而御座候以上

御案内之
右者御書面之趣
以之通相違無之
明治元戊辰年
　　十月廿日
　　　右之通

一 筆啓上仕候、今般
殿様御帰府ニ付
通下ニ而六月廿九日御着座ニ付御達被成候
御前へ出合之往忍候ニ付
御座候而御使者を以
御菓銀之御取扱ニ而
以其分御達之通御書面御聞合
御使者ニ而御申付ニ而被為候御糸下ニ而
右之件天保九戌年之御先例ニ而

慶応(?)月廿日(?)

以上　某

回章 諸家ゟ御国付ニ 御太刀 御馬代被進候
之段 先達而右差出ニ不及旨被相達候
儀ニ付 御太刀 御馬代銀被用捨候
仕候得共 兼而御献上物御下ケ諸家及達候諸家
留之儀 御献物 御受之儀 差扣 御受用
無之候 御進献 御受用之儀 無之
旨 御国ゟ献上一切諸家ゟ差出候儀 無之
旨 御沙汰在之候 ... 此中 此段 可申達候
恐惶謹言

八月十三日　　桐原丹蔵

萬 雉 益城様
平 田 萬之允様
村 居 逸江様

添書 御書 勝之義 御達 以来 差控候ニ
向去朝鮮国御用従来取扱候分今般

以
思食候間上杉道節検校少将家
宣下之旨急度被相仕合奉存候右之條便種
以使者申上候中上候中御頼候
御名使者
桐良　丹蔵

御案紙之
右ハ御持参之趣以前之通被差上
右之通
御用人
丹蔵殿

右御写し

一　筆啓上仕候先書ニ申上候通私儀去月
十七日当着仕候御用向諸役中様江茂右之旨
新古交代仕候後門前表勤中ニ候之
長崎廻ニ而新古同道交代之儀御届書上
差上候然ル処相改年寄扱ニ差上候人
交代之御届申上候
一　御書付之趣奉承知以御使者御綱
一折　権御殿様ニ而御家来衆ニ而御用人
之御重役ニ而御用済之一新

澤様より一御進ニ物米ニ而更用無之候兼而
御進之承知候事故ニ御家様ニ而張合甚
試ニ而御主義御座候て御進物ニ差出
無之候段承知申候前文申上候通御
心中よりも御座候得者進上可申候
存候段先日申上候得共猶又得御意候

八月晦日　　桐良丹後

鴻雁益盛様

平田齊之允様

村上近江様

当伺上口法雁入所年当之候時代之有如文之通
是ハ四墨当家什不申ニ御座

三之七

右之趣御請申上候以上
卯十二月　名主
丹羽殿

ゟ之急廻状ヲ以
以飛札ヲ以申達候

一筆令啓上候然者
当御代官所御預り所村々
之船中渡場之者共坂越ニ而京都江相願
大坂役所ゟ被差越候ニ付無滞様
可被取計候也
十二月廿二日

慶応元年十二月廿二日

古川 [illegible]
村尾 [illegible]

村上近江

島雅楽頭 [illegible]

平田所左衛門殿

大[illegible]言 [illegible]

三月廿九日 [illegible]

[illegible]

一筆[illegible]往以被[illegible]三日之御裁判所へ

切腹[illegible]中[illegible]候[illegible]

[illegible]大[illegible]候[illegible]

朝鮮人男女九人[illegible]今[illegible]日以[illegible]

被[illegible]

[illegible]御裁判[illegible]

検使[illegible]候御使者

[illegible]人[illegible]

[illegible]判事[illegible]

[illegible]

然ハ清水様ニ上経川召呼人数を改
漂民共之中ニ而未委しく承り候段法渡
迄ハ無之候朝鮮国ニ而送還被成候一事儀
右之通達候ニ付相違無御座候事申上候
候以上

一 右漂民共事此度書籍小倉ニ而為差置
其内外金ニ而物支ニ而書出之内成分ニ候
為之事入法候以
右之段為申上候維新法雑之旨恐惶謹言

十一月廿三日　桐原丹蔵

平田為之允様

明治元戊辰年十月二日鴻之津沖江漂着候
并順同大渇囲島之者ニ漂着之朝鮮人
男女九人

口上覚

我〻共儀朝鮮国全羅道康津之庚戌
済庄ニ居住ニ而男女拾壱人家畑去八月
廿四日在所発船仕莞島ニ麦種等積
居銭因而ニ穀物買入同月廿八日船合を
為出帆仕候処又俄ニ風雨烈敷相成

此方ニ而吹戻シ候得共力ニ及不申候次第ニ
風波強く相成候而甚五郎初年之者共家出
候迄ハ何分心之如く働申候処甚五郎漂
悪く流失十方ニ暮寝候仕居候処一人溺死
仕候得者風涛尚甚敷相成申候得共
但風洋中漂流仕り凡十月二日夜漂流
者ニ而拵諸道漂着家船ニ悉皆破損同乗人
船頭仕候九人漸ク存命凡極難渋仕候
仕候迄ハ凡人々ニ無量相救相助初而日本

ニ而当地ヘ着船仕候得共難義相成候者
三人程ニ埋葬仕候ニ付同廿日同船
出帆遂ニ渡船仕十五日当地へ着仕候
漂流之内何國ニ而も船中手当致方御座候
儀ハ無之候ニ付當時得と承り候様之
儀ニ無御座漂着之分書送候之漂泊之段
当地迄之船中手当之儀者居合候者共

一 乗組人数之儀ハ乗組無之候ニ付此外
御座候間乗組無御座候

一 右之者共ハ此度唐人共ニ乗組為仕候ニ付
一 家内之者共ハ此度帰帆之節迎ニ参申候
唐之通訳者共申上候ニ付書付差上
申上候

明治元戊辰年
六月十三日 御役所

相良丹後
通詞 中村五三郎
中野清多郎
用達 若山平三郎

名歳附

覚

一 歳卅二 康 リグミン
一 同卅 妻
一 同十五 長子 チウミン
一 同十 次男 チウハク
一 同七 三男 チウウグ
一 同卅 李 モグエル
一 同卅 妻

若之

一 筆啓上仕候 去四月於朝鮮国
異船職争之成
朝廷ニ而御届ニ相成候付 長崎府ニ而之御書
去通御地出来之 御沙汰ニ相成候 府中ニ
長崎府ニ而差出候御届書写差上申候 以上
慕ヶ申上候 恐惶謹言
八月四日 桐良 丹後
濤雄蓋城様

一 一歳二 初ゟ無之
同十六 高 ト〆三三
存之通今日ニ而拙者儀親之方ニ相定候
二成相違無之様候
御用(?)思召之
右之趣御申上候御届ニ而
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一筆啓上仕候然者薩州洋中ニ而漂流同
国之浦江漂着之朝鮮人拾人并同国
女壱人同男女拾壱人都合人数弐拾壱人
一昨十七日出船今十九日当所江着
当湊江差送候通波戸場ニ而出
候ニ付例之通出船検使中江懸合
且又漂流人之儀ニ付使者之舟ニ而漂来
着物等追而可申越判而已漂民
之儀ニ付白洲ニ而口書判事此村宗七

平田靭負様
村岸逸江様

右申越候ニ付如此御座候以上

三月廿八日

村岸逸江様　御名

丹後殿

出帆之情於海上難計候ニ付同人共ニ
漂民共中ニ而可申来候ニ付此段被遣候
若し朝鮮国ニ而送還之儀一ト船ニ可差
尤ニ付於追而及申上置候

一 漂民共ゟ御国発表小国ニ而右之趣差出
中外無之候ニ付可申上書面相違無之候得共
奉入御覧候
存し候ゟ御兼而為御申上御勘定差候
恐惶謹言

十月十九日
桐良丹蔵

平田為之允様

明治元戊辰年九月三日豊後浮津ヶ横
浜通嶋之浦ニ漂着之朝鮮人拾人
口上覚
我々共儀朝鮮国全羅道霊巌之府
武川ニ住居之者七月十六日壱艘ニ而十人乗組居
商売同道海南之邑ニ而木綿并物貰替米
穀買調候而立志之邑より八月十七日
同所霊巌之者六人致便乗候乗船
出里より為乗組之者而都合拾六人乗組八月

未九日海南出帆仕候処夕刻ゟ俄ニ大西風
吹起り此方ゟ吹戻シ候ニ付紀州中切ニ及
相働ニ付而楫を損其上風波次第ニ強く
相成帆具悉く流失仕候ニ付不得止風任漂流
仕候処九月二日何国ニ哉不存渚ニ漂着致候
處其所之浦人ニ出會言語相替初而異国と存
候処ゟ其存大ニ安心仕候同六日脇之所ニ召連
越相成候ニ海船壱艘十七日当所前浦ゟ乗
仕候漂流之内何国ニ哉振を寄商賣

个所変成不仕候ニ付御尋ニ付毛頭存不申
之成不仕候漂着先ゟ是迄之通之御丁寧
御取扱之儀ニ下々重々難有仕合奉存候漂流
之次第御尋ニ付外ニ申上候儀無御座候

一 宗旨人数之外宗旨之義ニ付ゟ御座候御尋
ニ付右之外宗旨無御座候

一 宗旨之儀ハ御座候浄土宗ニ而念仏以

一 提札之儀御座候御尋ニ付差上人数所持不仕候
右之通漂民共申上候ニ付書付差上申候以上

明治元戊辰年
十月廿六　御名内
桐良丹後
海図
中村兵一郎
井脇評多郎
同年
芝山平三郎

各歳附
　　貫
一 歳五拾文　梁　セグ　ク
一 同弐拾金　金　チエグ　ドサ
一 同四拾八　高　ゾク　ヒン
一 同五拾七　金　イク　セイ
一 同四拾九　高　スグ　カン
一 同四拾七　高　メグ　ミユウ
一 同六拾　東　チエム　トク

一 嚴指九　金　ケグ　チユル
一 同指九　金　スク　ボク
一 同指之　崔　ユウ　セイ
右之通今日ゟ於港浦我々方ニ而受取
候而遠意掛候也

明治元戊辰年九月朔日五嶋崎浦横
浦願同女嶋ニ漂着之朝鮮人拾壱人
口上覚
我々共儀朝鮮国全羅道江津之
庶民ニ而壱艘之男女拾壱人乗組
穀物為買取として珍島江罷越八月廿九日
出帆仕候處俄ニ大西風吹起致地方江
不及漕寄次第ニ及難儀次第ニ
風波強く相成無是非帆具を捨乗任風

漂流仕候処九月廿六日何国共不存渚ニ漂着
致候仕合ニ御座候処同二日唐漢人之載候人ニ
ニ而取扱抱ニ初而同所ニ而御地薩摩領
大ニ安心仕候且亦漢船ニ乗合同所出帆
地方ニ御出船ニ相成追々海船仕去ル十七日
御当浦ニ着仕候漂流之儀何国ニ而蔵船之儀
商売ヶ間敷儀仕候ハゝ又ハ御法度之儀ニ者
無御座候且漂着之儀仕候漂着先ニ差遣候之
御下知御法度之儀ハ不ニ申上御預ニ仕合

右之通
一 宗旨之人数并宗旨無之切支丹ニ而者
無之外宗旨無御座候
一 宗旨之儀ハ御法度者堅相守候事ニ念申候
一 提抔之儀ハ御法度相守候之人数取扱候
右之通漂民共申上候ニ付書付差上
申候以上

明治元戊辰年
十月十六日
御奉行
桐原丹蔵

通詞
中村喜一郎
中肚伴多郎
用達
芝小市三郎

名嚴冊
覚

一 歳三十八 文 セイトウ
一 同三十七 文 トグトウ
一 同三十三 姜 シホグ
一 同三十 李 ヨグクイ
一 同卅六 朴 シンイル
一 同三十七 徐 トグウン
一 同二十 鄭 チムン

一　蔵二十　　義　アゲキル
一　同二十一　浩　チ　ニエミ
一　同十六　　文　バイク
一　同寧八　女　李　ケキル
右之通ニ御座候我々方ニ相変申候
嘉遠無之様ニ
恐惶謹言
不ニ御座候ハヽ右之通申候
以上
いつれも

一筆啓上仕候然者以下年別
為相知候此度当府ニ積候
者合所之内ニ蔵別被仰付候
然ル处相替候ニ付御依頼
蔵并楠本文吉郎方ニ而会仕
試候処相談ニ而落着仕候
之候処文吉郎ニ中宮候様被仰
二人ニ而右之趣可被仰付候

言語紀法度之其外被仰付候節即席見捨
ニ而以之農民住居等之儀ニ付違背之ものも可有之
事ニ候必又ハ何月入〆相手法度之
之御家中安居之義ニ付郷村同人別を
御深き之儀ニ付惣家七八歩以上之困窮ニ付
相済候一年分何分ニ無之程詞御取
達間敷候節第一之者之儀ハ格別之儀御座候
以之候ゟ御家来共へ申付之大事ニて

引出候郷中農業之儀ニ付不被仰付候而ハ難相済
候様ニ而可申哉と心得候也中ニハ百姓共書付下
箇ケ条ニ而申上候言語道断子細御用済有之候迄
実以残念之事ニ存候被仰渡候ニ付一同書上
候而ハ猶以国を重キ義ニ御座候而は

一 然る上ハ此度其筋藤蔵より申候大儀又之儀
之者法度之取計以之上申付之ものも
仕間敷段諸人共と以之下法度相守候人ニ而

一 船中於浦賀居候ハゝ評議之儀ニ不及候中ハ
前々ゟ数度ニ如何様ニも吉右衛門ゟ申渡
相済候ハ候条ニ付難叶旨御評
仕居候ハゝ船中済之儀ニ相成候旨仕候様ニ而申
候ニ付ニ而ハ御糺之上御咎之旨申渡下候様
滞船寺社奉行江出張之上所役人寄合
之由其段申候ハ

一 右之趣御答ニ者右ニ而役人差出之節
訴訟人共御尋之上京都ゟ申出候ハゝ当節
御評定所江差出候而役人差出候ニ付
候間先達而御評定所ニ而相済候而御紙
候事

一 前々ゟ相済候儀者町奉行江罷出候ニ付
并役人江申出候人数共中ニ而も御差出候様
町奉行ゟ京都ニ而者役人江相渡之上差出
并ニ書付之通被仰付候而御答之儀ニ大坂者

之御用急ニ付而継中ニ而遅滞仕候ハヽ御為ニ相成
次第大坂迄早々可被仰付候
大坂役所ヘ可被相届申候
被仰付ニ可被成候

十二月廿八日

平山謙次郎 御印
依田周三郎 在判
竹内清太郎
多田弥太郎

平岡鳥之丞様

書付を以得貴意候、然ハ御継中
御用状御出立ニ付、御急便ニ而
急御差立被下候様御頼申上候
右ハ御懇意之儀ニ付、御取計被下
候様御願申上候、以上
御座候以上

巳六月廿九日

一筆致啓上候、大坂府之脱走人吉田
内[illegible]以下三人[illegible]引渡之儀以書面
致承知候、[illegible]遅刻仕候[illegible]今日[illegible]
御座候、今年[illegible]須大崎（又[illegible]）田中（[illegible]）高屏[illegible]
勢手捺居候[illegible]楠本文吾郎相知居候之[illegible]
尋問仕候処、此北絶趣承[illegible]請取為
当殺害[illegible]被[illegible]
何卒[illegible]

之儀表問 并ニ申付不都合之儀 重々恐入候旨

申立候ニ付 右書面之趣 承届候得共

別紙之通申付候 御用之外 出門等

之通可致 右之趣申付 向後右様之儀無之様 従者

三人 急度申付 引取候得 重々相慎 右之者

手前家来 躰之 違下中ニ

一 揚屋入申付候 右間違以下 溜預ケ

之底 彼 存候得共 不都合之儀 御座候通

以書面之通申付 尚又 申立書面之通 可致旨 御沙汰候ニ付

右之趣 来京相成候ニ付 以書加遣し候

大坂蔵屋敷 留守居ニ 指合申候 田中

右御用 郷中 申付 不届之段 [illegible]

三宅 切支丹 宗門改 申付 [illegible]

右之趣 [illegible]

十二月廿日

竹本真左衛門

多田荘蔵

当所 [illegible]

平田篤元様

大坂府ニ而御達書

御旅家来吉田内通信之丞父成
岩倉殿御実家被為御元服被仰出候付去
十二月朔日御参内沙汰御申上難来
沙汰御和ニ而被成下方筆致御座
以来此度御前沙汰被仰付
願前御掛り以頼以相成し以来御沙汰被仰
兼而御令御沙汰首尾之儀被遣

此度文書掛ヶ候源之丞ニ付候御
見当り申候処此段出精候
注状之儀迷右注文成仰下り候
難有奉存候右御請之為奉願候以上

十二月九日

宗少将内
多田荘左衛門

十八日小組惣兵衛へ請取人を以
差出候願書

口上覚

對馬守家来吉田図書儀結来之處
此度田安也注文之儀尚済之儀仕
願候處引續請取人数方御中候處
出来候看板不都合之御小組惣兵衛へ
兵右衛門方ニ而承候處不都合之儀

今般之主意入以治方之少仕候て
存知通之被下何分宜敷御実栄
被下願上候以上
三月十九日
宗十将内
多田荘蔵
格本被成下以上書
吉田門通以下三人ヘ御渡被中枚

総支先判中ニ合重以御書状判半府分
被書中以候
右三人脱而之者ニ候中西家之
為之御意以吉志之者ニ而正例之く
因人因根御名摂之三ケ
網延之御仁意ニ付御不相濟候ニ付
右御仁意之取扱有之御作御取扱其
御届之つもり之年合之出候以上之別紙

御内命を以御用其御探索ニ付
猶ゝ未見出し候事

諸家書

覚

宗對馬守家来
吉田内匠
佐ゝ木多左衛
右儀申来ル也

右ハ今日御引渡候ニ付猶委細申述候
以上

十二月廿九日

宗対馬守内
田中杉右衛門
大塚又之丞

尚以此儀者御内ゝ御伝ニ而御取計中
拝承不仕候間宜敷御含可被下候以上

進達致候別紙申上候吉田内匠
以下三人去寅府ニ相伝候紙表之人数
之候歎願仕候紙ニ付連紙之通書面
八助ら船ニ而舎者儀為也経中ニ而当時滞
ニ付当分相渡ス内ニ人相増中ニ而
候得共外ニ差支候通及承知候得共
而可然相伺候処手遣候之趣承知を相済申候
時候為御申上候右付候得ハ相伺候
以上

十二月廿九日　竹本五次郎

多田荘蔵

平田篤胤様

当所ニ而ハ大坂府橋本文吉郎ト申
越物ニ而御座候浪士且浪華隊ニ而内々
途中ニ而船ニ而警衛ニ而お附足候

四ツ半時頃角通り候ニ付

南條雲助
二宮三鉄郎
大高平兵衛
藤野内蔵丞
秋山信之輔
中澤兵蔵
山田年夫

若田和三郎
西田寛吾
西村東之助
外
菅井五郎

以上

右御沙汰之儀者最早
村々帳面引取
相違無之段判形
尚又相違無之候
右寺檀混淆ニ付
取計も遠慮
此段書入置候
候事

一 当中年以来諸国万石以上以下私領
寺社領且諸藩ニ於而取ニ有之候向も
旧幕府ニ而先年より振合之村々帳面調来候
先年より取調方ニ付天保十三年ゟ寛政七年
幕府ニ書出ニ宗門人別帳面状差出置候
此義民政取扱ニ而先年より御沙汰之有之候
然ル処長崎府より御改及右宗旨人別帳取扱
先年以来取調候近年より四月十八日附書状を
以申越候依之右宗旨人別帳当今差出

以手紙致啓上候、振舞方相済候付而御礼之意
趣被仰聞候、右者御病気ニ付、右者治国之儀ニ付委細
兼而申達置候、当方ニ而茂承知仕候、右之段及承候ニ付
此段為御心得申達候、以上
七月十五日　平田為之允
相良丹後殿
岩瀬渡殿
尚々、此状被書付候而差上候、以上
十月十五日
岩瀬渡印

平田為之允様
相良丹後印

之事去年之儀
此段申渡置候
右之趣可相守者
也

一 當冬船之儀大阪表ニ而候
微塵ニも　御構無之候
朝命之趣ニ付書状去方
年来之通ニ付候右達同人候
大坂後分ニ付今般公益連之者
雖申付候中不致参上
自然此方御沙汰之上者申
ニ付無之相済候上者
之事及延引候猶此節可申付候

右之趣各能々承知可有之彼是以此後
為其中連判之者共押印仍如件

寅八月十二日

吉川糸女

村岡相模

村岡典膳

平田為光度

鳴雄並林

右之被仰付有之候間可申達候以上

二月廿日

いわしん

三右殿

是迄申候

右間御済寺

旁御心得可被成候

一 筆之儀ニ付

河内守様被為 [illegible] 御年内ニ而

御母様当月十日附之御書状拝見

其通之儀ニ付 [illegible] 御座候

拙者 [illegible] 拝見 [illegible] 十月廿日 [illegible]

[illegible] 御座候 [illegible] 来二月

[illegible]

[illegible]

[illegible] 十二月 [illegible]

庚子二月十五日 [illegible]

御取合宜敷被成下候様ニ奉願候此旨宜敷御申上可被下候

及言上候御礼申述

御贈孔雀御用ニ付御客ニ而大坂御目付文ニ

差越候ニ付御請申上候御申ニ而被成下奉存候

以御使者

御用番安藤對馬守殿江進物被遣候ニ付罷越御礼申上

遂御返答申上候ニ付下書ヲ以テ申達

御安藤殿ニ而御取次衆へ遣候処御取合宜敷

罷越候御代ニ而御直ニ申上候御取合宜敷被仰付

御目見之儀被仰付候ニ付御請可申上旨被仰聞

差添ニ而御使者之儀御代官衆へ御申合候

御用向之儀御申合御承知ニ而御渡海方

御安堵之旨御礼申上候処御承知被成候旨

御渡海之御安堵ニ付太守様へ申上候

ニ進候ニ付御取次御請申上候

其後御用之儀ニ付申進候

御代官衆御申合之上進候

御用向之儀文申上候処御承知被成候

猿屋喜[illegible]御取次[illegible]進[illegible]
以御紙合[illegible]當用大分[illegible]
蔵敷ニ而大坂表[illegible]
手形[illegible]
有之[illegible]元[illegible]大坂[illegible]
後證[illegible]
[illegible]
[illegible]
為後日[illegible]

十二月廿日

石川采女

村上相模

村上近江

[illegible]

牟田為之允殿

ニ御座候

村ゝ先般御結納御祝儀として
御息女様より御神酒代として銀弐両被
下置候ニ付右御礼として御目見仕候処
右之段ニ付両人ニ而大手前別段御礼
申上候上様御目録被下候事
至極ニ存候ニ付此段申上候

一 年始御祝儀
御息女様江御目見被仰付御年始
申上候ニ付先年之通り御目見被仰付
難有仕合ニ奉存候御目録被下置候
右之段申上候
御息女様江御目見被仰付御礼申上
候処先年之通り御目録被下置候ニ付
右之段申上候以上

去ル六日之御書海路[illegible]遠路[illegible]有之[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

望之[illegible]之[illegible]中ニ而[illegible]打捕[illegible]
[illegible]前々文通[illegible]無之[illegible]
無[illegible]之[illegible]
[illegible]西[illegible]付[illegible]
此度[illegible]
此[illegible]
之[illegible]
中[illegible]
此[illegible]

十月[illegible]　[illegible]

修理[illegible]様
右門[illegible]様

右御書付之令有之旨候

右之様四組共二[illegible]

正月

[illegible]

日之[illegible]度

右之通可申候

以上

辰十二月廿六日

一 筆談之往代[illegible]

[illegible]

[illegible]

去猶々御郡村様より大会所被成下候方に
中之嶋御領主より付様に
被為遊候御所存之程御気色
御尊答被下難有仕合奉存候
下々にて候間御申聞被下度候
且又先日御出候節御尋之趣
仕度候共兎角今少々御座候

併之様子御座候而可申上候
中被成候得共何分御手前様御出被成
度候得共其儀近日御伺可申上
被為在之節御座候間何卒御承知被下度
奉希上候以上委細御目通之上可申上
恐惶謹言

十二月十四日

清浦□□

本田豊之丞様

辰十二月十八日

沛田周

今西弐
中野長九
岩田五郎
岩一三

以書状令啓上候、然ハ何方茂
上々様益御機嫌克被成御座恐悦奉存候
将又此方以書状得貴意候、尚
内匠儀未タ安否承度奉存候
候哉以風便申上候、宜敷御取成
此度ハ文右衛門参府ニ付、同人へ御頼申上候
以先達而被仰聞候中村田中へも申達候
様ニ存候、同人へ申上候通ニ御座候
書余期後便候、恐惶謹言

不埒之儀ニ而可然処ニ付 下郡御用番
猟師共得与被仰渡候上ハ世ニ不捨候 旨申付
並ニ御触書ニ而御書付ニ付 左之通
探索ニ而御挨拶も有之候ニ付 別紙之
通り之候ニ付申出候ニ付御触書山門
御座候ニ付 書付ニ相成候ニ付 山
之様之儀ニ付 在候ニ付 御座候
之儀ニ而候ニ付 四月上旬ニ付
其外之儀ニ付 右之通り

許方ニ而者候ニ付 右之一件ニ付 右之人
之儀ニ而候得共 及承知候 御座候
無之候ニ付 其外女縁
御書付ニ而 此下之人 御座候
不相済
然ル處右之一件ニ付 御座候
一件之儀ニ付 大目付探索之上ニ付
追付ニ而 右之儀ニ付 御座候
不束之儀ニ付 右之人ニ付 御座候

今般以て東福寺へ来ル月朔日参着可申
弟信使参着之節も御役人ニ而御座候事
無御座候
御連之儀右御書御老中並御役人中へ
被仰付候通
朝鮮人へ遣之節御中間ニ而御祝
落とも御振舞被下候右之節
被為付被下候御請被成候
御請被成候三人ニ而

一
朝延向ニ而饗応御通行ニ而御座敷御礼之
且亦去九月国通以下三人外参候
附太刀人使之儀ニ付御番
之候様被仰付候所ニ而
太夫白書候所ニ而見置候
客饗応以下御渡無之候
以下被下候太守様ニ而御饗応
候故
国通以下三人被遣候

朝廷ゟ御布令御沙汰之有
御布令之趣ニ而御一新ニ付ゟ且又
其上之 御当節ゟ御先代ゟ之御書
付候ニ付御元尾合之往被為存候付宇違
之義御座候ニ付被仰渡候様時宜ニ而ニ付
其方承知之
右従村々之者被申付ゟ御役之庄屋之趣致候へ

辰
土月三日

古川　泉女

中田御元役

村長　杉蔵　殿
村年寄　近江　殿
島雄ゟ右衛門　殿

不被申上候ハヽ以書付を以可申上
右之通　　　若無之
被仰渡

津田周

辰三月廿二日

以上

尚以[illegible]之[illegible]於何方成
上様御採用[illegible]御承知被成候ニ付右之
書面御覧候ニ付御文言[illegible]御沙汰次第御家
老衆御用番江御達[illegible]上御差図次第
被成候、実ハ右之儀ニ付去月廿日
伝通院様御逝去之[illegible]
之[illegible]御取計中御用番江申上
書付差出候、[illegible]之外
右之人去九月御沙汰之上御治定[illegible]

御坐候御使者ニ而御申越之趣
不届之至ニ付一下通書面之趣何レも
御承知之上御新役之者共江
申渡候様可被成候右之趣年寄共江申上候
可申候以上
御家老中大切之儀候ニ付
候得共右之通申渡
相成候御坐候者
可被成候御沙汰之趣御座候

然ル上者右之趣御達可被成候
辰十二月二日
大川 采女
村尾 相模 判
村尾 造酒 判
島津 壹岐 判
平田 右之允殿

右御状去ル十二日相達候所当夜四ツ過差上申候

十二月十二日

写

一筆致啓上候、然者御同氏中様より
七歳八歳九歳之者御状被差越候三崎御国
山城船奉行着船ニ付、少々罷在
右御状被差遣候、然者御達可被下候
付候事中之助殿御座候様御頼申候

大坂
渋谷月中

十二月十二日

平田為之允様

猶々時候御厭
被遊候様奉存候
以上

一 寒ク御座候　御壽殿様益御機嫌能被
遊御座恐悦之御儀奉存候
上ゝ様方様御安泰ニ御事ニ而目出度
奉存候　将又ニ付御屋敷中別条
無之罷在候　乍憚御安意可被下候

一 去十一日
殿様御参府　御道中御機嫌能被遊
御着府被遊候

同日御屋敷御機嫌相伺　御安泰御座候

慶応三年十二月廿二日出

右之趣御申上可被下候已上

正月十三日　堀田

太田様
御中

芳種々　御座候

一　同廿二日御仏詣日本
厳様第私院日本御仏参ニ而遊申候
御様御往来為御帰候

一　同日横田勇之丞殿敏子被参り
御代参ニ而参詣仕候

一　同廿三日西門詰番御役不被仰付
請申候事出来仕候無御心元
仕合勤役大小姓衆進候御用番々　御座候

一　同日中村又之丞殿寄宿心得有之候付
御酒被下候御芳種頂戴仕候　御座候

一　同廿日平田浅右衛門殿江被仰付候
御座候由御申候　御座候

一　同日更清方年寄加様之事蒙仰
候事々　御座候同意御座候

一　同日右同人殿被申候御朋輩衆中仕出
御用之事ニ付御申候付
御出仕切々　御座候

一 同十五日
殿様昼ゟ御出馬牧野へ[illegible]御出
被為入候

一 同日新入田東[illegible]中[illegible]
殿様御[illegible]江御出馬御鷹[illegible]
被為遊候

一 同十六日[illegible]殿[illegible]三郎殿[illegible]
大坂表へ出立被致候御目見
被仰付候

一 同日小浦ニ而同村松村[illegible]
御帰[illegible]被仰付候

一 同日[illegible]
被仰付候 御目見被仰付候
御帰[illegible]被仰付候

一 同十七日
殿様御[illegible]江御出馬被遊候

一 同日浦山[illegible]
[illegible] 御目見被仰付候

□用達ニ付牧野事ニ通以
思召式法相守罷進候ニ付　御褒美
一　同日志田郡助儀郡中令候ニ付　御褒美被下之
高氣候行ニ付差免之
一　同日棟梁東田之儀様子致敷之沖合之為
田代ニ付差出候ニ付　御褒美並今日之船
之　御褒美ニ
一　同十八日ニ付稲田洋流読書師門人
源治儀多年大小絶読進方之精ニ付

此上一生之中清志之面出候
一　同十九日御前御容合同之者　御出席之被下候
殿様御中淀苗之　御参府之節候
一　同日沖井氏栗田治部候
御婚姻御用掛之　御褒美
一　同日之波木大仏寺三浦杖沖之氏
之御為之　御褒美並以取之波取之御用掛之者
岩倉病之之者差免候
一　同日学士松浦御之中候更儀方之嫡子席

被下之振助内之　給分ル

一　同廿日奥役添見習勤解中役請被仰付
御小姓京都留守居之処兼而御評定方
以御用席ニ付御賞遣御役料ニ重之被仰付

一　同日少年人　表門　書様　同寄席少年人
助役　同役席　廣之通　右同所之者被仰付
之精勤ニ付御賞遣之ニ付御役料ニ重之
被仰付

一　同日少年人　書記事務　命中大書事

京都留守居兼大島友之允儀　御用席常
同所ニ而御用所之精勤　御目付之寄席
ニ付御賞遣御役料ニ重之被仰付

一　同日書記本寺龍之允　御小姓京都留守居
御用之精勤ニ付御賞遣之ニ付　御役料ニ重之
給分ル

被仰付

一　同廿一日中国御米係少年人之　給分ル

一　同日同寄席梅田若狭係学校教授
之　給分ル

一 此度上日金掛り候付候御礼申上候ニ付御目見
　ニ　御分通り被仰付候段再御沙汰ニ御分候

一 同日藤田昇之允殿
　並普請院様御目見役ニ付て御代ニ付御任通
　御影更代御出ニ付　御分通り被仰付候段
　御出ニ付　御分候

一 右被為在申遣ヶ御紹ニ可被成候

亥
十月廿二日　大河原安

樋口勝三郎
村岸松藤
村岸道和
島雄之作

平田藤之允殿

夜須連壁

直取来候有之哉振ニ候得共

其御申候主之方より先年小林無之来

度下主例要脇之中看去年有之

能之有之脇四郎殿中村甚兵衛罷越候

明白ニ付四郎殿より右兄ニ付早速度之旨

其之返し候奉存候ニ付沒脇之者記

之者太四郎以之紙打捕連其写差

四郎殿之旨連合為御信ニ振合之十場

差返候儀と可相心得返上之儀ハ
以之外之思召ニ付而ハ以来御沙汰候
有之儀ニ候得共當節之儀ニ付以
御憐愍寛典ヲ以御擇被為在候処
以之儀　従前之所置早々相改候事
十月廿日　　行政官
諸藩之所布――

徳山　復藩

東軍資方ニ而冥加献金差上候ニ付
従来之通ニ而御人数若年ニ付而ハ旗本之旗持
素ヨリ旗本之者共三掛り厚程之鳳ヘ出寄致令
且之国内之形勢之旗本ニ属し候ニ付
於是カ追々大小旗多数御差遣ニ相成
前合之通之要路ニ而御取扱之
ヘ車ニ付之儀ニ付御沙汰候
四百式代遠藩ニ昇進之　従前ハ付之ト

申渡し明上

十月十七日　　政信

讃岐守殿中

ご出来之節早々書付
大ケ條ニ付右之趣ニ而御達ニ付急度可申候
差上
両人
新町前度

之々出来候
と仰て

辰十月十二日ニ而之

以別紙之趣去ル十一日
殿様御中請問ニ御出席之上
議事請取之紙以来書方ニ
右請ニ付 御出席之議事書合
書書面ニ右達ニ付之旅ニ事一冊
右操ニ而太ニ被以出状来之趣
及通達ニ粉文何連之義精勤仕候
之て
御意有之一統重畏ニ右趣

右諸中出候ニ付被為ニ申述出候

右之趣御役所様え

十月廿二日

古川采女

樋口孫四郎

村岡相模

村岡近江

平田為之允殿

鴻雄益城

并外差

被奉ニ候處ニ御見舞被成下忝存
ニ存候、自今常々書方ニ御情入家業ノ事ニも
勤向御無ニ御勤奉

右被奉ニ

被奉ニ候處ニ御見舞被成下忝存
ニ存、自今常々書方ニ御情入候、汝奉
家業ノ事ハ猶々無油断御勤被成候

可候奉

右 書合ニ
常々

甲州年寄衆
石川三十三万石近江守殿へ
十月十三日 以上
近江守
差紙之
有難存
存奉

以別紙之趣上の鴻雄差紙村
通り御沙汰今度
御上より御沙汰 御用付候
差出方之儀
之通り御請取之
御村々ニ而
可被仰付候

十月廿二日

古川宗女

辰三月十二日

樋口鉄四郎

村岡右様

平田万之允殿

鴻雄益城

村野迪江

右者此度上京用掛中付而差支者附
難迫引上候儀ニ付而ハ大造之用途ニ而
而已有之候所貴所配下形勢上上京
仕候中付而ハ差支不常之遠国外務之
之御無事ニ而可被相成候得共万端
守衛之人数少安候事ニ而四方万事当所
附後一ニ者猶亦致之度候也

十月

以飛札令啓上候
天気快然珍重存候追日寒冷之節ニ候
十一月廿八日 ○○○

御返事

以御状申進候先度者寛々貴殿御出被下候
其元御無事ニ候哉 承度候

十月廿六日 観政中

寺田殿 参 人々御中

辰十一月廿六日 ○○

右之通被仰出候ニ付此段可申達旨被仰候

五月十三日　御目付

藤田……

辰三月廿五日

一　篤今般之儀ニ付
殿様　御寿殿様　御前　御〃様　御機嫌
被為成御揃被遊候ニ付
上〃様方様方御安泰ニ而御機嫌能
奉恐悦候ニ付文之拝御尾張中別紙
之通被仰付候
一　去月廿四日於村越被仰付候ニ付
御役御免
被仰付当座勤

書付之通
上様ゟ被仰付
御上ニ付
之ニ付
御役之

一 同日中村又右衛門等深く心得候ニ付
其外騒動之節骨折候ニ付　紋付被下置候
格別之訳
御憐愍深被思召被下置候
紋付被下
一 同廿二日当家長兵衛儀当年六拾
六歳ニ相成候へ共年齢之通勤同之者共
細末勤相勤候隠居願ニ付勤方ニ付
家督被下置候　紋付被下置候之勤労ニ付被下
右之者共忠勤相勤候ニ付之通遠来之者共候
手持迄度々相勤候ニ付被下候　紋付被下
一 同廿六日
光雲院様御月忌ニ付
殿様御松院江御参詣被遊候
被遊御出
一 同日
殿様名中詰所江御出被遊候
一 同廿七日

殿様御中陰御法事ニ付御出席被遊候
一 同日小田原ニ而之御法事被為在御用人御勤少人御
泉門御城筆ニ而候 御附候
一 同廿八日会計御法事ニ付福済大師御執行御用
国代見長州長済ニ而右御返以御来御出々
之節御前候
一 同晦日小田原石見守殿御名代御手順事
之御名代浅野河内守殿相勤候
御附之通以御意以大老御免被仰付候

名代新大御順事兼勤候 御附候
一 同日吉村隼人殿浅野河内守殿相勤
候 御附之通以御意以大老被仰付候 御附候
一 同日右御用人大老事相国事掛り
大老事之通大老事御免被仰付候掛り
会計奉行事兼御用係 京都
留守居兼勤候 御附之通以御意以今般
朝廷御沙汰之儀ニ付留守居御役
之儀返以御沙汰御用人兼勤候 御附候

一 同日井上与兵衛之息候共樹木等園師
甚之丞儀同所役事ニ付　御褒美

一 同日塩田良之丞千山之差配
諸民相守沙附候ニ付　御褒美上京ニ付

一 去ル同日
殿様被為　御出席新規之取立ニ付
右為請海山修覆ニ付
御米壱被下

一 同日会計役事福嶋大丸候也其
藝州表御方御出役人足悪之難儀
右之趣ニ付内用役出浦方作役是勤ニ付
御褒美

一 同日山城宮役家役筆耕之
右代役之勤勤病気無之
依頼之処精勤之候ニ付勤法
状來之処一ヶ年之内壱持送候之内
之者右候ニ付　御褒美

一　同二日同国憲次郎書状館江御文談方
老中加城志摩守様被仰渡候助勤之
相済候

一　同三日
殿様御帝中諸写より御出帝ニ被遊候

一　同日御浦浦同附松村へ申合候当御遣船
為御登帝別より出仕今日上船附
並首尾調候

一　同四日御参会同ニ付

殿様御帝中諸写より御出帝ニ被遊ニ而云
云之候

一　同日諸事記候候若村勝太郎へ送候此卯年
嗣後参判使船主ニ之
為相済居候処大吉使本之為渡候而存念
不相合之訳ニ而為宛統太郎ニ難済
見候ニ付事九此三太郎参判使代り当て
未已年より無難送使之間ニ而出仕現ニ
細附候得之　相済候

一 同五日
殿様名中諸ゟ御出席ニ而遊候

一 同日新役願事能本大坂へ被仰付候ニ付役儀
大頭事山奥勤ニ付 給仕頭ゟ被仰付出来山奥勤
之役出来候

一 同六日
大雲院様御百回忌ニ付
殿様芝松院ゟ御仏参ニ而遊之処
雨ニ付延候

一 同日
殿様御誕生日ニ付御祝被仰付ニ付御中ゟ
御祝被仰付候

一 同日参政ニ而殿様御誕生日ニ付諸士ニ而[illegible]
相済

一 御上京之節相勤ニ付 給仕頭大坂迄罷越相勤ニ付
給仕頭御附之者勤山奥附為其褒美紗綾
[illegible]被下候

一 同日参政ニ而大頭事ニ而浦様[illegible]同意

平山次郎左衛門当春
御上京被成候 御供大坂ゟ被成帰国
候 御供附合骨折勤ニ付為御褒美縞
銀壱枚充ッヽ被下候

一 同日会計奉行 黒岩市郎左衛門
当春
御上京被成候 御供下関ゟ御用
有之中帰国ニ而後追ニ而度々上京
候 御供別而令骨勤ニ付為御褒美縞

紗綾弐巻ッヽ被下候

一 同日会計奉行 七五三勇助後当春
御上京被成候 御供下京起病氣ニ付
帰国候 御供附合骨勤ニ付為御褒美縞
銀壱枚ッヽ被下候

一 同七日
養覚院様 光雲院様御服掾 三條右大臣三家卿之御息中 弐両
御志ニ而為ニ付 被遣候料 金弐百文
御菓子料 松院へ 為被遣候

一 同日於御役所御願之通御助勤被
六郎左衛門儀鉄炮方江御用被仰付候
仰付並御同心より田沼石見守組御代
官方江鉄炮方江御用出役被仰付候

一 仰付候
今十日市役所事平田組与力郷村
新宗清同助勤被仰渡之小十人組御役所之
組御助勤之 仰付並御小十人組番不
之候典樹方之御役所奉行事被下

之
仰付候付右御助勤之者名前
右之通被為仰渡候ニ付連印を以差上候
之趣承知仕候

八番
十二月十日

古川宗女
村岡相模
村岡近江

戊辰 六月

去ル当年ニ拾算年之如く再同仕候
之内取計候之痛無之候得共去年
御勤御頼ニ而信居同様御取計之
御付候同人 但文政二卯年 御出勤
御付当年ニ五拾歳ニ相成り候付御勤之上代
御付相尋御付上
御奉行様之 御役料旧来取御役之儀相願
小追之 御付相合之去役前後ニ拾四年

平田篤之丞殿

鴻雄蒼城 花押

右之勤候之代其勤中ニ者出役相勤候ニ付
諸入送物掛合方之別精勤仕候ニ付
猶又用向無差支相済候ニ付御手当文江戸勤番者
之年来勤労以格別之出精ニ付場合以御憐愍之御賞
被為仰付候処猶又被仰付候右勤候ニ而当勤向
之儀者同人江勤中ニ茂江戸勤番名代
申付用向取計方之精勤ニ付手当勤筋之役
之精勤之段書付中茂勤ニ付申付
有之銭壱貫五拾文年々被下置候得共

中付節右別家隠居ニ付御手当年々金弐分
年々勤労之段及御沙汰内御聞済被下
候右様通候ニ付御下ケ法之通被下候趣被仰渡候

十月十九日

三郎右衛門

諸事方御中

山城　言治

右天保十二年卯改異本等稀也
後拝見永二年戊武江法世也
後拝見役之代役役之者不図一見之後者
之外拝借少也
後拝見又之助殿也
後拝見上青月也役也
後拝見要求出門
高氣基三私従之之者之人能文同人役
之來性處之人之為等之專事之之有之
法往孫後宿之様後來事未ち起了之級

一右ハ諸郡ゟ出役　十二月ゟ請取役所之御用
之村々様方より勤候ニ付、事前所々役人村々
御用筋之儀ニ付、御見分之上ニ而御用申付候ニ付候而者
出役之者ニ而者ハ無之、其上御用役ニ而も勤之事
御用之品御役人御見分之上ニ而差出船
数度之御用出役致候ニ付、村役人共も相勤
且又右之儀者村数々村之内ニ而々相勤候
御用之儀有之候ニ付、多分之義ニ付候而も其者
御役所之者御用向ニ而相勤候事

近年之所々ニ而洋運上京都ニ而
人足入用之事も、御見分相勤　相文
御役所之者ニ而入用之事、御用有之候ニ付而
諸入用相勤候入用筋並ニ付候　御用之儀
度毎之入用度宜敷相勤之事ニ而者少も
其節法之民情無差支事之儀御用ニ付
一右之儀是迄有之候ニ付、御用人
精勤之儀御用筋之通り可相勤事
之節御差図ニ付　御用ニ而相勤当年之事

戌八ヶ年ニ而相済 勘定所之ニ候
去ル卯年より追々返済相成来
之処 此度 [illegible] 文化九ヶ年 御貸付
御座候処 丁年 ニ而 来ル辰迄 ニ而
下知候様奉願度候以上

十二月朔日

[illegible]殿

右之願書 [illegible]
本件之願書

右之通 [illegible]

辰十二月廿日 [illegible]

右之

以前候ニ付是迄之御拝借返納 [illegible]
当年分御免被成下且又御用金之中
下ケ金先ヵ御拝借無之 [illegible] 御座候故
加保 [illegible] 有之 [illegible] 代人
住出 [illegible] 遣 [illegible] 書 [illegible] 返 [illegible]
中迷 [illegible] 御渡 [illegible]

十二月十日

古川 [illegible] 女

村尾 [illegible]

村上進江

平田萬之允殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

辰十二月廿六日 認之

以別紙ニ申達之候

御家老様御事先般[illegible]九月

初旬[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法外付候御病気ニ中ニ宰海御渡海く
御筆ニ成得ニ御自身之御認之一宰使文様ニ而初
御遊宮様方ニ御葉思召候付十月上旬
青月初旬ニ掛 御渡海之方生安之満蔵
御出張ニ相成候方ニ色之志之様思召候
御清之者ニ之乗孫々庵達ニ々中納言之千
御出張ニ相済以御出之致方ニ之く
及兵衛殿ニ以之先日中旬様孫庵達ニ之く
書状相達之披見仕候如御病気之宮様

清湯治之御飛脚之ニ御去ル御様子御病気
御座候処ニ御普請御遊ニ清金治之中納言
之御應接ニ之御進之日御治定之様方之
御治定様田代表之へ小筆之御菩之御覧
被下様之ニ之事御同ニ之ニ御同く
御渡海可ニ之三月朔来中旬ニ御自記
御ニ之御納之帳ニ中納言御座候
安殿中納言ニ而御得之之ニ付ハ御尤ニ
中老御部御座候ニ付御機嫌之し

十二月十日

古川采女

村尾来輔

村尾近江

鳴雁一之進

平田篤胤殿

一筆啓上仕候
御縁女様御目見被成候方ニ御座候処去ル八月
廿三日九月七日両度之御書面ヲ以粗申上置候通
之儀ニ御座候右様御書状御開封野田家御用ニ
飛札ヲ以申上候其後去月之書状方より返
之事ニ付御沙汰及御無沙汰御座候
御事ニ付ケ条ニ御座候
御目見之儀御尤ニ奉存候
之趣方ニ而申上候御座候中止居候

附日之趣ニ付光之年ニ御座候ニ付中ニも先般
甚池ニ候ニ付言上御回之御女様御事ニ付
御広間誤ニ而不有之候
御家女様御不例之処御全快ニ付而御事於何
御様躰之儀ニ付先日来日夜之御見舞
之儀ニ付御用人御座候ニ付先早速御見舞仕
御書面拝見ニ付御回御容躰御同様
御渡海之儀ニ付御回仕候ニ付中ニ而
御痛風之御容躰ニ付御湯治ニ而御出立之儀

御腰痛ニ付御出足ニ付御書状遣ニ付有之候
其後其之御病勢之由御容躰不相替御承知候
及御申之御沙汰ニ付御承知之儀御座候ニ付何分
当月中其之御渡海之儀ニ付而無之候ニ付御手当
之御渡合中迄之外ニ而御手当之御返例之御見舞有之
甲斐守様ニも白銀二枚
御家女様ニ而金子之儀ニ付御申御礼中之
御事之御祝儀御使人日田代ニ而御使者ニ而
之儀ニ付御日之御礼之御書儀ニ付御候

私事申候付御当家様ニ而御揃被成候由承知

目出度存候ニ付御悦申上候毎度御返書被下忝存候

遊し内縁之儀様御噂様方よりも被仰越候

御座候各様へも宜敷奉頼候何卒御風邪之

御様方十分御療治被成候様申上候日夜

殊之外御寒気之節御障り無之候様奉存候

私事も無事罷在候間乍憚御安心可被下候

下女共迄無事相勤罷在候御懸念被下間敷候

猶期後音之時候恐惶謹言不具

此段為可申上如此御座候恐惶謹言

十月十七日　渡辺幸左衛門

御雅楽様

古川

采女様

尚々御紙面見候ニ付御意之趣承知仕候御挨拶

申上候

猶以右之段宜敷奉頼候

御報御座候御座候御用向之儀ハ来月御目出度

御祝儀之儀御座候様御返事奉待候

之段奉願上候

然ル上ハ
御同人様御事先頃御渇腫未タ難儀ニ候而
御家内之通ニ御座候而御快気之程も心配仕候
追而其御様子承り度存候[illegible]
[illegible]未済中　御目録[illegible]何事も御座候
[illegible]之[illegible]御留[illegible]相成候ハヽ[illegible]遣候而
[illegible]以来[illegible]御座候[illegible]候[illegible]合
下ケ申候[illegible]候[illegible]様ニ御座候
為御知申上候

十月廿五日

野田弥四郎
手代　代之助

波多野孫兵衛様

尚々御細書被遣先日者御懇意之段[illegible]
[illegible]御座候[illegible]御[illegible]奉存候
[illegible]御[illegible]御[illegible]之御[illegible]
[illegible]御[illegible]ニ御座候[illegible]
[illegible]存候

[illegible]

十月十四日

以上

[illegible]

十月十四日

中沢吉左衛門

[illegible]

鶴田清右衛門

渡辺孫左衛門様

[illegible]

以別紙致啓上候[illegible]朝鮮

[illegible]

十二月十日

吉川采女

村岡近江

半田直元殿

島雄善織 御判

村尾右摸

右御報御用須文政十年廿日

十二月

一 御菓子壱箱
右御菓子之義去ル十二日御使者を以被遣候ニ付
差上之 御礼
某殿
御役所

ともえ

辰三月十二日着

以別紙致啓上候 去月十九日御分形
御例女中 安養
御女子様御縫物去十日御道中ゟ御状
有之御届之儀
諸薬様ニも御附ニ付右之御附候ニ
何しも御役御礼及御遣被成候 下されし
御達被成候 此段相叶不申 御取計ニ付候
御頼候 以上
十二月十日
古川 某女

村尾[illegible]様

村尾近江

島雄若狭守様

平田[illegible]殿

右之者[illegible]

以上

十二月十二日

[illegible]

以御紙中進候去月晦日於[illegible]書院

[illegible]職方ニ而被召[illegible]

[illegible]申来之通ニ候 仍[illegible]候

一 十三日法談列座ニ付申来之通ニ候 仍[illegible]候

一 同日表御用人へ志文御用人へ被遣候

一 同九日典職方より[illegible]鶴生より[illegible]

右[illegible]申進候以上

十二月十日

親役中

[illegible]

牛田萬元度

刑職之衆等不及於寺也書所ニ被
市中ニ立置之法様之犯ス者を捕ス
書面ニ而ニ之須職役を以事ニ而御之
於此米金之高ニ而之義之内ニ之如被及
此將大職之此之之承事之寺是ニ而如此
御用立此様之寺也書面之名号而御座
御ニ寺與其典職方之御後号之
御用此被之被以其之分妻之馬也ニ六ケ月死
文化勤之　御用立ニ文政八酉之年ニ定役之

也 御目付同十二巳年町奉行ゟ兼勤也
御目付延享二亥年以前之渡候目勤
也 御目付慶應元丑年又之町奉行ゟ
兼勤本職之月之町奉行ゟ兼勤仕
非分之無之也 御目付以上之者般役之新御目付
刑法之役是ゟ出候事也 御目付以付新之
奉事也 御目付市政之事役席定役之
役之義大小雑之用事目役事役
之義新政役之決之也 御目付之代役定

三ヶ月更代勤也 御目付延宝と役ゟ兼務
八人宛役之也 御目付以上之月組之忠勤
流弊も有之二付子細有之時弊も有之
役筆二而無之して貶褒役付何も之義
廉潔と有之し辞文氣耳目之事
其外民情と求め情中識実役之達
役向と勤以経之御事之本何之忠弊
役之流不積力以経之事役事之以之以
事之以奉達之太之御役之立為代

猶中口具ニ可申渡候以上

十月晦日　　重政判

諸士政所中

同寺家中

参申給

一乗院ゟ申上候

諸役所へ被明和四亥年十月右達書如

此旨御家来へ急度被申渡候　猶拙者ゟも可申

上候以上

十二月十日　　重政判

諸士政所中

奉行

大願寺

諸士衆
頭人事
奉行人
御厩形
奉行人
少頭事
目安
大奉事
公用人

御用事掛
御次役
職事
寺社役職事
今年奉事
兵役奉事
新役奉事
市役奉事
出織奉事

松浦壱岐守
阿部壱岐守
京極若狭守

以上

此度来ル十六日晩ニ
右之御案内[illegible]去ル十二日差上ヶ候書付之通[illegible]

以上
十二月十六日
御勘定中

平田[illegible]元

辰十二月十六日到来

以切紙申進候、先便申達候書状案文
未被見届候、目録書付差越申候
可被得其意候、以上

十二月十四日
申上

撰政中

平田彦元度

以書付を

右御切紙之趣十六日相達申候写書差上申候以上

三月十六日　名主

御役所中

組頭中

辰十一月十六日出

以切紙申進候、大縄手新河岸極印請取可申候
可被差出候、右之者江相達候様御取計之
中進候以上

十一月十六日

甲田萬元後

御役中

右切紙五十三行迄藤原朝臣迄以上

十二月十三日　某　花押

阿波守殿中

右之紙八寸五分程
小出山城守
以切紙申達候中

以切紙申達候、然者関川中方ニ八嶋
半状差遣候ハ、今度出張役方ニ
出役之面々極而実ニ致無之候様ニ
以上

十二月十九日　宇田為之　花押

大坂
役御中

右之切紙以書付申上候以上

十二月九日　役所中

平田馬之丞様